

世界のオレンジ果汁は供給逼迫を背景に高値が続く

FreshPlaza2023年4月18日

ラボリサーチ 世界のオレンジ果汁の見通し2023/24

今のところ、供給側についてブラジルの2023/24年度のオレンジ収穫量に驚くほどの変化があるか、または2023年後半に世界の需要がかなり急激に縮小しない限り、オレンジ果汁市場は少なくとももう1シーズンは逼迫すると見られる。

ラボバンク(オランダの金融機関)の最近の報告書によると、2023年のオレンジ果汁の記録的な高値は、オレンジの生産量が予想より少なく、果汁の在庫量も少ないという非常に逼迫した市場の結果である。しかし、オレンジ果汁の高価格と消費者需要の減退により、今年は需要の減少が加速すると見られ、このこともあって市場が高水準で均衡する可能性もある。少なくとも2023/24年産のブラジルの収穫予測が供給不足の緩和をより明確に示すまで、価格はおそらく高止まりするであろう。

ラボバンクのシニアアナリストであるアンドレス・パディーージャ氏は、「2020/21年度と2021/22年度の2年連続の不作により在庫水準は非常に低く、さらに現在の2022/23年度の悪いニュースとして、この在庫不足により、オレンジ果汁価格が今年大幅に上昇し、2017年に最後に見られた水準を上回り、史上最高の高値に向かって上昇するのに最適な環境が生じている」と述べた。

米国の輸入が増加

世界のオレンジ果汁市場は供給不足にさらされており、在庫がいつ補充されるかが不透明であることが、価格の上昇圧力を高めている。さらに、フロリダ州の出荷量の減少が続いていることにより、米国の輸入量が過去4年間増加しており、ブラジルからの輸出に対する需要に上乘せされている。ここでの基本的な前提は、現在の状況下でフロリダ州の持続的な回復の明確な道筋がないため、米国は今後数年間主に輸入に依存し続けるということである。生産量を増やすには多額の追加投資が必要になるが、生産コストの上昇により、オレンジ果樹園への新規投資の魅力が低下している。

ブラジルの2023/24年産は供給不足を緩和するか？

需要が弱まっているにもかかわらず、世界の需給バランスは、過去2年よりは程度が小さいものの、今シーズンも再び供給が不足する傾向にある。世界の供給量の目安としてブラジルの2023/24年度の最初の収穫予測に注目が集まっている。一部の初期の兆候は、この段階での雨の降り方、開花及び果樹の状態を踏まえると、2022/23年度と同様の出荷量となる可能性があることを示唆している。しかし、果実の品質と収穫量の両方が良好であったとしても、そのような作柄が在庫の問題を軽減するのに十分かどうかは不明である。

米国の輸入依存度の高まり、メキシコで生産性の低下に関係して生じている課題、及び他の輸出国の不在は、ブラジルからの供給がおそらく2023/24年度まで引き続き逼迫することを意味している。価格が高いために世界の需要が予想よりもかなり速く低下する - これはオレンジ果汁に関して現実のリスクである - のでない限り、市場をより中立的に再び均衡させるためには、かなりの収穫量が何年か必要であろう。

世界の見通し

世界のオレンジ果汁市場では、現在の供給逼迫からの緩和は、短期的には限られたものしか見込まれない。在庫はしばらくの間抑制された状態が続き、ブラジルからの前向きなニュースがあったとしても、市場の基本的な状態は2023/24年度の高価格を支持している。ただし、需要サイドのリスクを過小評価してはならない。すでにインフレの影響を受けているヨーロッパと北米の「弱くなった」消費者が、2023年後半にオレンジ果汁の消費を減らすペースを速め、その結果現在の予想よりも早く市場が均衡する可能性がある。これにより価格は、2023年第1四半期に見られた記録的な価格と比べれば穏やかだが、依然として高い水準になる可能性がある。今のところ、基本となる予測は高値が長引くことであるが、今年の出荷の最盛期には、高価格による需要崩壊のリスクが高まっている。